

ニンニク (ユリ科)

古代エジプト時代から強壯剤として食されていたといわれる。

作型	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
露地栽培						収穫				定植			

1) 適地

高温に弱い作物で、気温が25℃以上になると枯れます。球の肥大に最適な温度は15～20℃です。また酸性の強い畑では生育が劣り球の肥大が悪く、良質のものができません。石灰やリン酸肥料とともに良質の堆肥を施用します。

2) 品種

千葉在来、沓州早生、鳥取ホワイト、無臭ニンニクなどがあります。球の肥大には温度と日長が関係し、その要求度は品種によって異なります。

3) 作り方

【圃場の準備】定植1か月前に1㎡当たり苦土石灰150g、BMようりん50g、堆肥2kgを施用して耕耘します。定植の1週間前に1㎡当たり高度化成肥料60gを施用し、十分に耕耘します。平畝でも作れますが、排水が悪い畑では幅100cmの畝を立て、尻水戸に溝をつなぎます。

【種球の準備】種球は大きなものを選びます。大球のりん片ほどよく生育し、大きな球に育ちますので収量が多くなります。

【定植】9月中～下旬が適期です。早すぎると種球の休眠が破れていないため発芽が不揃いになり、遅すぎると翌年の収穫時に充実した球がとれません。ニンニクは密植できる草型をしていますので、平畝の場合は条間30cm、株間10cmで深さ3cmに定植します。畝立てをする場合は2条植えとし、株間は12cmにします。

【追肥・管理】10月末と、2月末に1㎡当たり高度化成肥料30gをそれぞれ施用します。追肥が遅くなると裂球につながるため、最終の追肥は遅くとも3月中には終わるようにします。草丈15cmくらいになった頃、2芽以上出ているものは勢いのよい1芽を残して掻き取ります。春になるとトウ立ちしてくるので、摘みとります。ただし早すぎると玉割れしやすいので、蕾が葉の先端より少し上に伸びた頃に摘み取ります。

【収穫】5月下旬から6月上旬のころから随時利用できます。吊るして乾燥貯蔵する場合は、茎葉が1/2程度黄色くなった頃に掘り上げます。根を切った後4～5日乾かし、風通しのよいところに吊るします。

4) 病虫害防除

肥切れ・施肥過多のいずれもべと病を誘発します。株の中で極端に生育の悪いものがあれば、ウイルス病の可能性が高いため、すぐに抜き取って処分します。